

日本語・英語・中国語双方向学習者コーパスにみられる

テンス・アスペクトの習得

Acquisition of Tense and Aspect in Cross-Referential Learners' Corpora of English, Chinese and Japanese

望月圭子・申亜敏・小柳昇

This paper focuses on L1 transfer in the acquisition of tense and aspect by Japanese and Chinese learners in the International Corpus of Japanese as a Second Language (I-JAS) and TUFs International Learners' Corpora of English, Chinese and Japanese.

First, we introduce the benefit of using Cross-Referential Learners' Corpora of English, Chinese and Japanese to reveal various types of L1 transfer. For example, L1 Japanese and L1 English learners of Chinese show a difference in the acquisition of the Chinese determiner “One + Classifier + Noun Phrase” which is obligatory in a telic sentence. L1 English learners acquire “One + Classifier + Noun Phrase” correctly while L1 Japanese advanced learners show difficulty in acquiring the determiner usage of “One + Classifier + Noun Phrase”. We suggest that the linguistic cognitive typology in L1 affects the second language acquisition of the aspectual system in the target language; both English and Chinese are “Bounded”- oriented languages while Japanese is an “Unbounded” type language in terms of aspectual boundedness.

Second, we compare Chinese/English L1 learners' story-telling in I-JAS with the same story-telling by Japanese native speakers in I-JAS. Our findings are that Chinese/English L1 learners have difficulty acquiring both the durative “-te iru” form and conjunction forms in complex sentences. In addition, Chinese/English L1 learners have difficulty acquiring “-te shimau”, a sentence-final modal expression for an unfortunate situation. We assume that these expressions are of high difficulty by analyzing the same story-telling task written in Chinese and English; neither Chinese nor English have these expressions.

137

【キーワード】 アスペクトの第二言語習得、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(I-JAS)、

日本語・中国語・英語双方向学習者誤用コーパス、

複文におけるテンス・アスペクトの習得、

学習者の母語と日本語習得における母語転移

Second Language Acquisition of Tense and Aspect, International Corpus of Japanese as a Second Language (I-JAS), Cross-Referential Learners' Corpora of English / Chinese/ Japanese, Linguistic Typology and L1 transfer, Acquisition of Tense, Aspect and Modality in Japanese complex sentences

1. 学習者コーパスと第二言語習得研究

2020年3月25日『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(International Corpus of Japanese as a Second Language ; 以下 I-JAS と略称)が完成し、一般公開された。<http://lsaj.ninjal.ac.jp/>

I-JAS では、日本を含む20の国と地域で、異なる12言語を母語とする日本語学習者1000人の話し言葉および書き言葉が公開され、日本語のレベル別、母語別、技能別、学習環境別にデータの比較が可能である。さらに、日本語母語話者が同じタスクを行った日本語データも収録され、日本語母語話者と学習者の産出がどのように異なるかをも調査分析することが可能で、非常に画期的である。

本稿の目的は、日本語学習者コーパス・中国語学習者コーパス・英語学習者コーパスにおいて、異なる言語を母語とする学習者の産出を比較することによって、学習者の母語の相違が、第二言語習得にどのように影響しているかを論考することにある。なかでも、アスペクト表現の習得は、日本語のみならず、中国語の第二言語習得のなかでも、最も難易度が高い文法項目である。また、失語症患者による母語の言語回復においても、アスペクト表現の回復は最も遅く、難易度が高いということである¹。そこで、本稿では、主に日本語・中国語のアスペクト表現の第二言語習得に焦点をあてて、考察することにする。

本稿で研究対象とする学習者コーパスは、I-JAS 以外に、東京外国語大学国際日本研究センターにおいて公開されている、以下のような誤用タグ付き日本語・英語・中国語学習者コーパスである。

- (1) 東京外国語大学国際日本研究センター「日本語・英語・中国語学習者コーパス・誤用検索」システム <http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus/>

この三言語(日本語・英語・中国語)の誤用タグ付き学習者コーパスは、東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門「日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究」(2010-2012)²及び「日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究とウェブ辞典構築—国内外の日本語教育研究機関との協働的研究—」(2013-2015)³プロジェクトにおいて、海外の大学との連携で、構築・研究が進められ、論文を収録した報告集として公開されている。また、この誤用タグ付き学習者コーパスは、科学研究費基盤研究B(25284101)「英日中国語ウェブ誤用コーパス構築と母語をふまえた英語・日本語・中国語教授法開発(2013年度-2015年度)」の研究としても構築された。

(1)の学習者コーパスは、以下の(2)(3)(4)の三種類の学習者コーパスからなる。作文の内容は、大学の授業の課題作文等、統制されていない作文も収録されているが、主に、本稿の付録に収録されている統一翻訳課題「上海留学の思い出」(日本語・中国語・英語版)⁴に基づく学習者コーパスが収録されている。また、母語・学習歴・検定試験の点数等の学習者情報も付されている。

- (2) 東京外国語大学「日本語学習者作文コーパス及び誤用辞典」

http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus_ja/

英国リーズ大学・北京大学・上海外国語大学・国際教養大学と連携した、各大学の英語・中国語母語日本語学習者による日本語学習者コーパス。129 作文が、本稿の第三著者小柳昇により、添削情報・誤

¹ 玉岡賀津雄教授の研究報告(2019年5月18日「学習者コーパス研究会」東京工業大学キャンパス イノベーションセンター)及び言語聴覚士関恵子博士(元神戸大学教授)からの個人的談話による。

² 研究成果論文を収録した報告集が以下のサイトで公開されている。

http://www.tufs.ac.jp/icjs/images/publications/project_001.pdf

³ 研究成果論文を収録した報告集が以下のサイトで公開されている。

http://www.tufs.ac.jp/icjs/images/publications/project_002.pdf

⁴ 一般公開する学習者コーパスのため、著作権の関係で筆者が執筆し、研究チームの日本語・英語・中国語の三言語使用者が日本語から英語・中国語に翻訳した。

用タグが付されて、収録されている。主に北京大学の第二外国語としての日本語履修者・上海外国語大学の日本専攻の学生が、辞書を使用して⁵、中国語から日本語へ翻訳した学習者データが収録されている。

(3) 東京外国語大学「英語学習者作文コーパス及び誤用辞典」

http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus_eng/index.php

日本語母語話者及び中国語母語話者による英語学習者コーパス。284 作文が、学習者情報・添削情報・誤用タグ付きで収録されている。日本語母語話者英語学習者コーパスは、東京外国語大学英語専攻1年生の授業の課題として、授業外に辞書を用いて執筆された英作文のほか、翻訳課題「上海留学の思い出」の英語翻訳(辞書使用)が収録されている。

添削はアメリカ・イギリス・オーストラリア・シンガポール英語母語話者のべ24名が行い、毎週会議を開催して、統一の方法で添削し、誤用タグ付けを行った。

中国語母語話者英語学習者コーパスは、上海外国語大学及び国立台湾師範大学と連携して、翻訳課題「上海留学の思い出」の英語翻訳も収録されている。

(4) 東京外国語大学「中国語学習者作文コーパス及び誤用辞典」

http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus_ch/

東京外国語大学中国語専攻日本語母語話者による中国語学習者コーパス。369 作文が学習者情報・添削情報・誤用タグ付きで収録されている。

初中級の2年生から、中国・台湾からの1年の留学を経た4年生5回生まで、幅広い学習レベルの中国語作文を誤用情報・学習者情報付きで公開している。授業の課題作文(辞書使用)のほか、翻訳課題「上海留学の思い出」(辞書使用)の中国語翻訳が収録されている。

本稿の第二著者申垂敏が統括して、通算25名の中国語母語話者大学教員・大学院生がチームを作り、毎週会議で討論して、添削・誤用タグ付け・相互チェックを行い、公開した学習者コーパスである。

このほか、学習者の承諾書がないために、非公開ではあるが、国立台湾師範大学から提供された、台湾の中国語検定試験 TOCFL(Test of Chinese as Foreign Language)の試行試験において収集された英語母語話者による中国語学習者コーパスも、同様に、添削・誤用タグをつけ、研究資料として整備し、研究対象データとしている。

2. 多言語学習者コーパスにおける相互参照性

上記の日本語・英語・中国語学習者コーパスは、「学習言語」×「学習者の母語」の組み合わせとして、以下の図1のような6種類の対照パターンが可能であり、各言語の文法習得において、学習者の母語が

⁵ 辞書使用の有無は、語彙の産出の分析には大きな影響があるが、文法の産出の分析においては、影響度は大きくない、という印象を、プロジェクトを通して得た。

異なれば、どのような異なる第二言語習得をみせるか、という第二言語習得研究に役立つ。

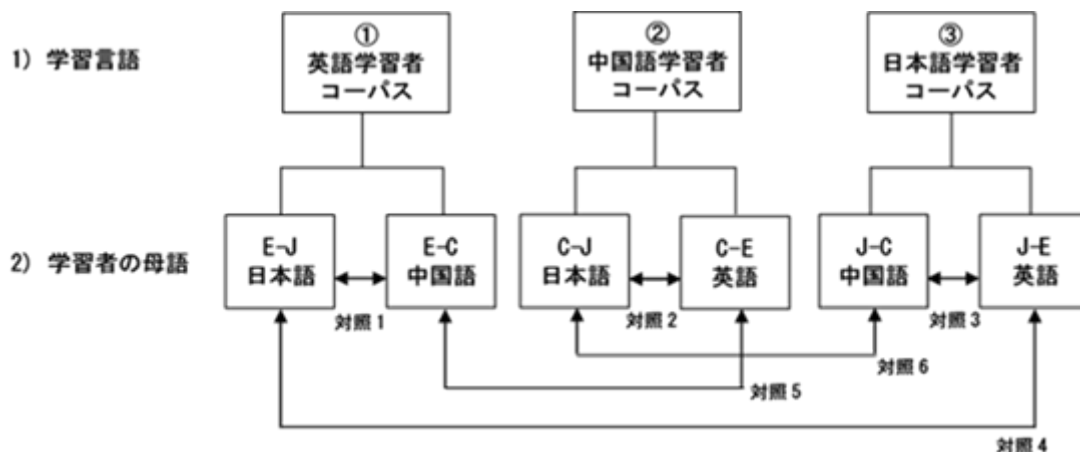


図1 「学習言語」×「学習者の母語」の組み合わせと対照パターン

研究の一例として、「日本語母語話者は、中国語を習得する際に、どのような日本語の特性の影響を受け、誤用を産出するのか。」を観察するために、図1の「対照2」(中国語学習者コーパスにおける日本語母語 vs. 英語母語話者の産出の対照)を例に、次の第3節で考察しよう。

3. 中国語学習者誤用コーパスにおける完結性の誤用: 「日本語母語」対「英語母語」

3.1 名詞句における「有界性」: “一+類別詞”の習得

池上(1981, 2007)では、英語が「個体化指向」「有界的」(bounded)な事態把握であるのに対して、日本語は、個体を全体に融合させ、明確な輪郭をもたない「連続体指向」「無界」(unbounded)的事態把握であることが述べられている。この主張を支持する現象として、中国語学習者コーパスにみられる「“一个 yige”の欠如」による誤用が挙げられる。“一个 yige”とは、名詞の前につく“一+類別詞”構造で、常に義務的に名詞につくわけではなく、沈家煊(1995)によれば、「有界的」(bounded)な事態把握の場合にのみにつく。“一+類別詞”は、英語の a/the と同様、統語的には名詞の前につく「限定詞」(determiner)の性質を一部もつと考えられるが、その生起条件は、英語の“a/the”とは異なり、事象構造の「有界性」(boundedness)という、叙述内容が、ひとまとまりの事象として認知されるかという基準で規定される。

日本語母語話者中国語学習者コーパスでは、脱落現象が顕著である一方、国立國立台灣師範大學国語教学中心より提供された CEFR で B2 レベルの英語母語話者中国語学習者コーパス(非公開)では、脱落現象は顕著ではない。これは、英語の名詞句の構造において、不定限定詞 “a/an” が存在することが、中国語の“一+類別詞”の習得を容易にしていると推測される。

次に、日本語母語話者は、中国語の習得において、数量詞の過少使用が顕著である例を挙げる。

(5) a. 那时发生了*(一件)不幸的事。

その時、不幸な出来事がおこった。

b. 东大和有*(一个)很大的公园，东大和南公园，附近也有*(一条)小河。

東大和にはとても大きな公園がある、即ち東大和南公園である。そして、その付近には小川も

ある。

一方、英語母語話者の場合、「“一个”=英語の不定冠詞 “a” という過度般化により、「無界」(unbounded) 的な未完了の事態においても、“一个”をつけるという過剰使用もみられる。以下は、国立台湾師範大学より提供された英語母語話者コーパス中にみられた“一个”の過剰使用例であるが、いずれも、予定・可能・蓋然性・否定等の「無界」(unbounded) 的な未完了の事態に“一个”をつけた誤用例である。

(6) a. 我計畫我們去電影院看(*一部)電影。

私は、映画館に行って、一作の映画を見る計画をしている。

b. 我記得你說過你喜歡丟飛盤，所以我會把(*一張)飛盤帶來。

君はフリスビーが好きだときいたから、私はフリスビーを一つ持ってくるよ。

c. 我在台北沒有發生(*一個)大問題，……

私は台北では、まだ大きな一つの問題にあつたことがない。

d. 今天他不但忘了帶手機，也忘了帶(*一瓶)水。

今日彼は携帯電話を忘れたばかりではなく、水一本持ってくるのも忘れた。

また、本稿の最後に付録として収録されている「上海留学の思い出」の日本語原文と中国語翻訳を比較してみても、中国語翻訳には、9例の“一+類別詞”⁶が使われている。中国語母語話者によれば、こうした“一+類別詞”は、すでに起こった出来事、という有界的事象文の名詞句には、義務的に付加されなければならないということである。

(7) a. 上海留学时的一段回忆。(上海留学中の思い出)

b. 虽然是一个物资不是很丰裕的时代，但是胡老师以及他家人对我的热情款待的回忆，始终就像一个宝藏一样。

(物質的に豊かとはいえない時代でしたが、胡先生と先生のご家族が私をご親切にもてなしてくださった思い出は、宝物のように今も胸に刻まれています。)

日本語教育の現場において、中国語母語学習者が、「ひとつの」「一人の」「一個の」といった表現を多用する現象もみられる。第一筆者が、東京外国語大学日本専攻で「文章表現超級」クラスを32年間担当してきた経験では、中国語母語話者の日本語作文には、「ひとつの」「一人の」「一個の」という表現が多く、不思議に思っていた。中国語母語学習者には、「こうした表現は誤りではないが、冗長」として指導してきたが、対応する中国語においては、有界事象を表す文で統語的必須成分の可能性が高い。どのような日本語文に「ひとつの」「一人の」「一個の」が出現するかを調査することも興味深い。

上の論考を要約すると、中国語には、文法範疇としての「数」はないが、類別詞が非常に発達し、数量詞が「有界的」(bounded)な事態把握の場合に目的語名詞の前につく。この点で、中国語は、以下の表1のように、英語ほど「個体化指向」ではないにしても、日本語よりは、「個体化指向」が強い言語といえる。

⁶ 付録の「上海留学の思い出」の中国語訳中の、9例の“一+類別詞”は、下線が引かれている。9例いずれも、実現された有界的事象として中国語母語話者が認知する文における目的語相当成分についている。

表1 英語・中国語・日本語の「数」「類別詞」「個体化機能」の類型

	① 文法範疇「数」	② 類別詞	③ 個体化
英語	+	-	+++
中国語	-	+++	++
日本語	-	+	-

3.2 動詞句における「有界性」：日本語母語話者のテンス・アスペクト表現の過少使用

次に、日本語母語中国語学習者誤用コーパスで観察される、完結事象を表す動詞句に関わる誤用も、英語母語話者と比較してみよう。

「有界性」という概念は、「時間の有界性」、即ち「完結性」(telicity)とも関連する。日本語においては、「動詞の自他対応における自動詞」(e.g. 植える-植わる、切る-切れる、直す/直る)や、「アスペクト複合動詞」(e.g. 読みこむ、書き出す、書き上げる)が、完結性を表す表現である。中国語には、テンスが存在しないという説も強いが、中国語は「完結性をもつか否か」を明確に言語化し、豊富なアスペクト体系をもつ。

中国語産出における、日本語母語 vs. 英語母語話者の対比は、日本語母語話者の場合、「完了アスペクト接尾辞である<了 le>」「動詞に後置され完結性を表す結果補語」「事象の未実現を表す助動詞<会 hui>」の過少使用が顕著である点にある。張正(2019:54)によれば、表2が示すように、例えば、完結性を表す結果補語“~到”の産出において、英語母語話者は、10,000語あたりの調整頻度が138.5と、日本語母語話者による調整頻度1.0に比較して、138倍も高い。

表2 結果補語<到 dao><成 cheng><完 wan>の産出の比較

		日本語母語	英語母語	中国語母語話者
頻度数	~到 -dao	338	464	25,070
	~成 -cheng	55	27	23,359
	~完 -wan	19	27	12,380
調整頻度 /10,000語	~到 -dao	1.0	138.5	12.5
	~成 -cheng	3.0	8.0	11.6
	~完 -wan	1.0	21.8	6.1

中国語母語話者の頻度数については、中国教育部语言文字应用研究所で公開している現代汉语語料庫検索で検索を行っている。<http://www.cncorpus.org/index.aspx>

日本語母語話者における「完結/非完結性」表現の欠如の要因は、さらなる分析が必要であると思われるが、<了 le>の欠如と、中国語母語話者における「~た」の誤用には、表裏一体の関係があると思われる。また、日本語学習者コーパス全体における「複合動詞の非用」、中国語母語話者にみられる「自他対応のうち、完結性を表す自動詞を誤って多用する傾向」も、中国語が完結性を重視する表現形式が卓越

し、完結性という認知体系が卓越していることと関係がある。

以上、東京外国語大学多言語学習者コーパスを、「学習者の母語と学習言語」という視点から、双方向に比較することによって、母語の認知システムがどのように学習言語に影響するかを論じた。

次の第4節からは、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス I-JAS」を用いたテンス・アスペクトの習得について論考する。

4. I-JAS における複文中アスペクト・接続表現の習得と母語の影響

第4節以降は、I-JAS における、日本語の「複文におけるアスペクト」及び「複文における接続辞」の習得と、学習者の母語の影響の可能性について、中国語・英語との比較を通して論じる。

まず、「テイ(ル)」の習得と母語の影響に関する先行研究として、Sugaya and Shirai(2007)は、動詞の語彙的アスペクト・学習者の母語のアスペクト体系という要因が、日本語の進行相と結果相両方の機能をもつ“-te i(ru)”の習得と関わっていることを論じている。

さらに、峯(2015)、峯(2019)では、複文・文脈処理が必要な文脈「テイ(ル)」の習得は超級になっても誤用が残りやすく、文脈「テイ(ル)」の習得と、複文処理が必要な接続辞「ト、バ、タラ、ナラ、ノデ、ノニ、テモ、トキ」等は、共に上級・超級レベルで習得可能であることを示唆している。

同様の現象は、上級・超級レベルの英語学習者・中国語学習者にも観察される。英語学習者については、Newbery-Payton and Mochizuki(2020)は、上述の東京外国語大学で公開している上述の「国際英語・中国語・日本語学習者コーパス誤用検索サイト」<http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus/>における上級・超級の英語学習者コーパスを分析し、中国語母語話者と日本語母語話者では、複文のテンス・アスペクト産出について、異なる誤用類型がみられることを論じている。

中国語学習者についても、Mochizuki et.al, (2015)、望月(2018)では、上記東外大「国際中国語学習者誤用検索サイト」に基づき、中国語の結果アスペクトの習得が、日本語母語学習者は上級でも脱落が顕著であるのに対し、英語母語話者には脱落現象がないという現象と学習者の母語の類型を論じている。

以下、本稿では、I-JAS に収録されているストーリーライティングを対象として、日本語母語話者の「語り」と、中国語・ベトナム語・英語の母語話者日本語学習者による「語り」を比較する。まず、ストーリーライティングの対象となる5コマ漫画は、右上にあげる「ピクニック」というタイトルの漫画である。本稿では、以下の三つの視点から比較分析を行う。

第一の視点は、日本語母語話者は、漫画①から②への展開の語りにおいて、どのような「2つの出来事に関係づける文法形式」を用いているか、という視点である。特に、「接続表現」及び「進行相・結果相を表す“-te i(ru)”」に着目し、日本語母語話者と上記三言語の学習者の産出を比較する。

ピクニック (picnic)



第二の視点は、漫画⑤における語りの落ちの表現について、残念な結果に「能動態・受動態」のどちらが用いられるか、どのような「文末表現」が用いられているかという視点である。

第三の視点として、同じ漫画を中国語及び英語でストーリーライティングしたデータと比較し、日本語の語りの特質とその習得について考察する。

本稿の分析対象は、I-JAS に収録されている、「ピクニック」のストーリーライティングのうち、日本語母語話者、中国語・ベトナム語・英語母語話者各 50 名、計 200 名によるデータである。さらに、独自に収集したデータとして、中国語母語話者 10 名及び英語母語話者 2 名が、それぞれの母語で同じ「ピクニック」のストーリーライティングを行ったデータ⁷を分析する。

5. 語りのアスペクトと「接続表現」

漫画①②は、①の「Ken と Mari がピクニックに行くために、サンドイッチを作っている」という出来事と、②の「Ken と Mari が地図を見ている隙に、犬がピクニックバスケットに入り込んだ。」という二つの出来事を描写している。2つの出来事を関係づける文法形式として、“-te i(ru)”形と接続辞の二点に焦点をあてて考察しよう。まず、漫画①②の語りにおける、“-te i(ru)”形と接続辞の使用状況について、日本語母語話者と学習者を比較すると、以下の表3及び表4のような対比がみられる。

表3 “-te i(ru)”形の使用状況 各母語話者 50 名

日本語母語話者	中国語母語話者	ベトナム語母語話者	英語母語話者
88%	52%	48%	22%

表4 複文における接続辞の母語別使用状況

	接 続 辞	日本語母語話者	中国語母語話者	ベトナム語母語話者	英語母語話者
1	～間に	42%(21 例)	2%(1 例)	2%(1 例)	10%(5 例)
2	～隙に	28%(14 例)	0%(0 例)	0%(0 例)	0%(0 例)
3	～と	14%(7 例)	0%(0 例)	0%(0 例)	0%(0 例)
4	～とき	0%(0 例)	42%(21 例)	44%(22 例)	18%(9 例)
5	～ながら	0%(0 例)	2%(1 例)	2%(1 例)	24%(12 例)

表4から読み取れることは、以下の三点である。

I. 日本語母語話者の84%は、「～間に」(42%)、「～隙に」(28%)、「～と」(14%)を使用。

(8) 出かける前に二人が地図を見ている間に、サンドイッチを入れたバスケットに犬が入ってしまい

⁷ 中国語母語話者10名は、日本語を理解しない、中国山東省の大学の医学部学生9名と、日本語が堪能な台湾出身研究者1名で、ウェブ入力方法により、東京外国語大学大学院生ファン・インルイさんの協力を得て収集された。英語母語話者2名は、それぞれイギリス・アメリカ出身の東京外国語大学の英語母語大学院生及び学部研究生で、ともに日本語能力試験1級保持者によるデータである。

ました。(JJJ01-SW1-00010-K)

(9) けんとまりが地図を見てどこに行こうかと話している隙に子犬がバスケットの中に入り込んでしまいました。(JJJ12-SW1-00010-K)

(10) ケンとマリは昼に食べるサンドイッチをバスケットに詰め、今日の行き先を確認するために地図を広げていると、二人が飼っている犬のリサ(犬の名前)ちゃんがバスケットの中に入り込んでしまいました。(JJJ05-SW1-00020-K)

II. 中国語・ベトナム母語話者は、「～とき」の使用がそれぞれ 42%, 44%を占め、英語母語話者の使用率も 18%と観察されるのに対し、日本語母語話者の使用例はゼロである。

(11) ケンとマリが地図を読んでいる(読んでいる)時、その食べ物が入ったバスケットに飛び込みました (CCH19-SW1-00030-K)

(12) 二人と一緒に地図を見る時、ある犬はバスケットを入りました。(VVN20-SW1-00010-K)

(13) ケンとマリは地図を見たとき、ケンとマリの犬はピクニックのバスケットを入れました。(EAU09-SW1-00010-K)

III 英語母語話者で最も多いのは、「～ながら」⁸(24%)であるが、中国語母語話者・ベトナム語母語話者ともに、1例のみであり、日本語母語話者は、使用例はゼロである。

(14) でも、マリとケンは地図を見ながら、犬はバスケットに入ってしまった。(EUS01-SW1-00020-K)

145

峯(2019:66)は、“日本語母語話者が「～と」の使用が多いのに対して、「～とき」の使用が多いのは、接続辞表現の習得過程に沿う結果であり、「～と」は仮定的表現で、認知的負荷が高い。さらに、機能的に重なる「～とき」の使用が先行するために習得が遅れるが、習得が進めば、母語話者と同じように「～と」の使用が増えていく”と述べている。

6. 中国語・英語による語りのテンス・アスペクトと「接続表現」

次に、母語の影響の可能性について考察しよう。中国語(10名)・英語母語話者(2名)が、同じ漫画を、それぞれの母語で語ったライティングデータのうち、代表例一例ずつを以下に挙げる。

I 漫画① ②

(15) a. 今日は二人でピクニックに行く予定です。(JJJ05-SW1-00010-K)

b. 星期天阿健和玛丽打算去公园野餐。

c. One day, Ken and Mari decided to go on a picnic.

⁸ 後述のように、対応する英語表現が While 節であるため、While=“～ながら”という英語母語学習者の類推によるものと思われる。

- (16) a. ケンとマリは昼に食べるサンドイッチをバスケットに詰め、(JJJ05-SW1-00010-K)
b. 他们愉快地一起做了₁(-le,完了相)很多好吃的三明治, 并(順接接続詞)将做好的三明治和其他一些食物放进了₁(-le,完了相)一个篮子里。
c. Mari made sandwiches and Ken packed them in the hamper.
- (17) a. 今日の行き先を確認するために地図を広げていると、二人が飼っている犬のリサ(犬の名前)ちゃんがバスケットの中に入り込んでしまいました。(JJJ05-SW1-00020-K)
b. 他们家的狗狗在旁边很羡慕地看着(zhe 進行相)。准备好野餐篮之后, 他们看着(zhe 進行相)地图, 开始研究要(yao 将然相)怎么去公园。而(Er 接続詞)此时狗狗趁着他们不注意, 一溜烟钻进了₁(-le, 完了相) 野餐篮里了₂(-le, パーフェクト相)。
c. They were so busy they didn't notice their dog Rover sneak into the kitchen. **While** Ken and Mari were looking at a map deciding where to go, Rover jumped into the open hamper.

(17a)では、日本語母語話者は、二つの出来事をつなぐ複文の接続辞として、「～と」を用いていること、残念な出来事の描写に使われる「～てしまう」を用いている。

一方、中国語(17b)では、文の最後につく接続辞が存在せず、次の文の最初に「そして」に相当する接続詞“**而**”(Er 接続詞)が来ている。残念な出来事の描写に使われる「～てしまう」は、中国語では、文末に着く“**了**₂(-le, パーフェクト相)”⁹で表され、残念な出来事に対する共感性を表している。

英語では、二文をつなぐ接続詞として“**While**”(二つの同時進行の出来事のうち、背景となる出来事の節につく)が用いられている。上掲の表4で、英語母語話者で最も多い誤用タイプ「～ながら」は、“while + 節” = “節 + ながら”という類推によるという可能性が高い。

II 漫画③

- (18) a. 二人はそのままバスケットを抱えピクニックに出かけました。(JJJ05-SW1-00040-K)
b. 阿健提着野餐篮和玛丽兴高采烈地来到了₁(-le,完了相)野餐的目的地。
c. Ken and Mari set off on their picnic.
- (19) a. お昼の時間になり、朝二人で準備したサンドイッチを食べようと、バスケットを開けたところ、(JJJ05-SW1-00040-K)
b. **当**₁₀(dang: When)他们找好了野餐的地点, 打开野餐篮, 正准备好好享受美味的野餐**时**(~時),
c. They walked across the grass to a nice spot **and** Ken put down the hamper.

⁹ 中国語における動詞につく“**了**₁”(-le, 完了相)と文末語気助詞“**了**₂”(-le, パーフェクト相)の用法については、望月(1997)を参照いただきたい。

¹⁰ “当(文)時”で、“～のとき”節を形成する。

日本語では、「～ところ」という接続辞が使われているのに対して、中国語は「～時」に相当する表現、英語では、二文として **and** で接続されているのみで、日本語の複雑な接続辞の多様性は、中国語・英語には存在しない。

III 漫画④

- (20) a. なんと犬のリサ(犬の名前)が中から飛び出てきました。(JJJ05-SW1-00040-K)
b. 狗狗突然跳了(-le,完了相)出来, 吓了(-le,完了相)他们一大跳。
c. At that moment, to their surprise, Rover jumped out of the hamper and ran off down the field.

日本語においては、驚きの展開に、「なんと」が接続表現として使われているが、中国語・英語では接続表現はなく、英語では、副詞節として“to their surprise”が使われるのみで、日本語の接続表現の多様性は、学習者にとって習得がむずかしいことが予測される。

IV 漫画⑤

- (21) a. 二人は驚き、あわてて中身を確認すると、腕によりをかけたサンドイッチ(サンドイッチ)はみごとに 食べられて(受動態) しまっ ていました。(JJJ33-SW1-00040-K)
b. 更糟糕的是(モダリティ副詞：残念なことに), 打开篮子一看(見てみると), 原本准备大快朵颐的美食都被(bei 受動態標識) 狗狗糟蹋得(de 結果補語) 一場糊塗, 他们也只能望篮兴叹了(-le₁ 完了相 + -le₂ 文末パーフェクト語気助詞)。(サンドイッチが食べられてしまったという受身表現+パーフェクト語気助詞で感情移入を示している)
c. Ken and Mari looked into the hamper in despair. Rover had eaten the picnic food they had lovingly prepared! (主語の転換, 視点が Ken and Mari から犬 Rover に移り能動文。感情移入の表現はなく、文末の!が驚き・残念を表している程度である)

物語の最後の残念な結果表現として、日本語では、「受動態」「結果相“-te i(ru)”」が用いられ、「読み手と残念な感情を共有する共感性」が表現されている。中国語においても、中国語母語話者 10 名による語りでは、9 名が被害の意味を表す受動態を使っている。さらに、文末語気助詞として、“了(-le₁ 完了相 + -le₂ 文末パーフェクト語気助詞)”という、「完了+パーフェクト」の複合的意味を表す文末表現が用いられている。

最後に、ベトナム語は、中国語と類似する言語であり、表 3 および表 4 で示したように、日本語習得状況も、中国語母語話者とかなり類似していることも、重要な結果である。

7. 結び: コミュニティで文化的に好まれる表現を選択する能力の養成

南(2018)によれば、I-JAS「ピクニック」ストーリーライティングにおける日本語話者・中国語話者・英語話者による態の使用率は、以下の(22)のとおりで、日本語話者は、主人公に感情移入して、主人公

に視点を置くため、受動態が多いのに対して、英語話者は、動作主に視点を置く能動態が多い。中国語話者は、日英語話者の中間に位置しているようである。

(22) 「ピクニック」のストーリーライティングの態 (南2018による)

- a. 日本語母語話者(JJJ) 50名 : 視点が主人公に固定される傾向
受動態使用者 40名 $\chi^2(1, N=50) = 18.00, p < .0001$
- b. 中国語話者(CCM 50名): 視点の移動は日英語の中間程度の傾向
受動態使用者 31名 $\chi^2(1, N=50) = 2.88, p < .10$
- c. 英語母語話者: 能動態の頻度が高い。動作主に視点の傾向。
EAU(オーストラリア)能動態使用者 14名 $\chi^2(1, N=23) = 1.09, p = .30$
EUS(アメリカ)能動態使用者 24名 $\chi^2(1, N=27) = 16.33, p < .0001$

南(2018)の研究は、本稿で比較した日本語・中国語・英語母語話者による母語による「語り」の類型を反映したものであり、日本語・中国語・英語の「態・時制・アスペクト・モダリティ」の体系が、第二言語の語りに影響していることを示している。

南(2018)が指摘するように、「当該スピーチ・コミュニティで文化的に好まれる表現を選択する能力の養成」も外国語教育の役割であり、I-JAS データを学習者の母語と対照して研究することの価値も、共感性をはぐくむ外国語教育へ貢献するはずである。

望月圭子(もちづき けいこ、Keiko Mochizuki)
東京外国語大学 総合国際学研究院 教授

申 亜敏(YaMing Shen)
早稲田大学 非常勤講師
東京外国語大学国際日本研究センター 特任研究員

小柳 昇(おやなぎ のぼる、Noboru Oyanagi)
東京外国語大学非常勤講師
東京外国語大学国際日本研究センター 特任研究員

【参考文献】

池上嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイポロジーへの試論』大修館書店。

池上嘉彦(2007)『日本語と日本語論』筑摩書房。

南雅彦(2018)「日本語学習者の「語り」から見えてくる習熟度—語彙・時制・視点—」『I-JAS 第四回学習者コーパス・ワークショップ&シンポジウム—第二言語習得における語彙の役割—予稿集』国立国語研究所主催。2018年12月22日(土) 東京工業大学キャンパス・イノベーション・センター。

<http://lsaj.ninjal.ac.jp/wpcontent/uploads/2015/07/3d2764b1e75158b885d10c7e6590857c.pdf>

- 峯布由紀(2015) 『第二言語としての日本語の発達過程-言語と思考の Processability』 ココ出版.
- 峯布由紀(2019) 「文脈の時間の流れを表すテイルの習得について—日本語の発達段階における位置づけ—」 『日本語教育』 173 号. pp:61-68. 公益社団法人日本語教育学会.
- 望月圭子(1997) 「中国語のパーフェクト相」 『東京外国語大学論集』 55 号. pp:55-71.
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/23655>
- 望月圭子(2018) 「中国語と日本語におけるアスペクト複合動詞の習得—「有界的」認知からみた中国語・日本語双方向学習者コーパスの分析—」 『日語偏誤与日語教育研究』 3 号. pp: 83-100. 浙江工商大学出版社.
- 望月圭子・キャロライン狩野(2012) 「英語・日本語における空間・時間に関わる格標識：日本語母語話者による英作文学習者コーパスにみられる誤用類型」 『東京外国語大学論集』 第 85 号. pp: 219-236.
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/72380>
- 望月圭子・申亜敏(2016) 「英語・中国語からみた日本語の無界性：複合動詞と空間認知」 『日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究とウェブ辞典構築—国内外の日本語教育研究機関との協働的研究(2013-2015)』 pp:43-66. 東京外国語大学国際日本研究センター.
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/88247>
- Mochizuki, K. Hiroshi SANO, Ya-Ming SHEN and Chia-Hou, WU(2015) “Cross-Linguistic Error Types of Misused Chinese Based on Learners’ Corpora”. Computational Linguistics and Chinese Language Processing 20(1). pp. 97-113. The Association for Computational Linguistics and Chinese Language Processing.
<http://www.aclclp.org.tw/clclp/v20n1/v20n1a6.pdf>
- Mochizuki, K. and Laurence Newbery-Payton(2016) “A Contrastive Study of Prepositional Errors in TUFFS Sunrise Advanced Learners’ Corpora of English by Native Speakers of Japanese and Chinese” 『日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究とウェブ辞典構築—国内外の日本語教育研究機関との協働的研究(2013-2015)』 pp:25-41. 東京外国語大学国際日本研究センター.
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/88242>
- Newbery-Payton, L. & Keiko Mochizuki(2020) “L1 Influence on Use of Tense/Aspect by Chinese and Japanese Learners of English” pp: 67-93. *Learner Corpus Studies in Asia and the World4*, Kobe University.
http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003kernel_81011994
- Sugaya, N.& Shirai,Y(2007) “The acquisition of progressive and resultative meanings of the imperfective aspect marker by L2 Learners of Japanese: Transfer, universals, or multiple factors?” *Studies in Second Language Acquisition*, 29(1), 1-38.
- 沈家煊(1995) <“有界”与“无界”> 《中国语文》第 5 期、pp:97-110.
- 申亜敏(2005) 「中国語の自他と結果表現類型」 影山太郎編 『レキシコンフォーラム』 No.1. pp: 231-266. ひつじ書房.
- 申亜敏(2007) 「中国語の結果複合動詞の項構造と語彙概念構造」 影山太郎編 『レキシコンフォーラム』 No.3. pp:195-229. ひつじ書房.
- 張 正(2019) 「日本語母語学習者による中国語の結果補語の習得と母語の影響—学習者コーパスに基づく分析—」 『言語・地域文化研究』 25 号. pp:51-60. 東京外国語大学.
<http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/92691>

【謝辞】

本研究は、以下の四種類の研究費を用いた研究成果である。

- [1] 科研基盤 A 「海外連携による日本語学習者コーパスの構築および言語習得と教育への応用研究」
(16H01934:2016-2019年度, 研究代表者:迫田久美子)
- [2] 科研基盤 B 「国際連携・高大連携による双方向英語・中国語・日本語学習者コーパスの研究」
(17H02357:2017-2019年度, 研究代表者:望月圭子)
- [3] 東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門「日本語学習者コーパスプロジェクト」
(研究推進者:望月圭子・小柳昇)
- [4] 東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門「多言語複合動詞プロジェクト」(研究
推進者:佐野洋・望月圭子・申重敏)

【付録】

日本語・英語・中国語学習者コーパスに収録されている翻訳課題文「上海留学の思い出」

- [A] 日本語母語話者(東京外国語大学英語専攻・中国語専攻)への翻訳課題
→英語・中国語へ翻訳

Original Japanese Text (望月圭子 Keiko MOCHIZUKI)

私は、20代から30代にかけて、北京、上海、ロンドン、台湾に留学したことがあります。留学時代の思い出として、今、懐かしく思い出すのは、先生方のお宅に招かれ、おもてなしを受けた思い出です。

まず、最初に、上海留学中の思い出についてお話しします。

東京外国語大学で中国語学の修士号を得た私は、中国政府公費留学生として、1986年から1988年にかけて、復旦大学(Fudan University)に留学しました。指導教授は、著名な中国語学者であった胡裕樹教授(Prof. Hu Yushu)でした。その頃は、復旦大学の先生方には、研究室がなく、論文指導は、大学に隣接する宿舎に住んでいらっしゃるご自宅の書斎兼寝室で行われました。先生方のご自宅には電話もなく、突然訪ねていくが多かったのですが、突然お伺いしても、必ずドアを開けてくださった、そんな牧歌的時代²でした。

ある日、予約なしに胡先生のおうちを訪ねた³私に、ご一家は、「ちょうど八宝飯(Babaofan;もち米で作った8つのドライフルーツが飾られたデコレーションケーキ)が蒸しあがったから、食べなさい」と、ふるまってくれたのです。蒸したての八宝飯の「やさしく、柔らかく、幸福な甘さ」は、忘れることができません。その後、中国料理店で、八宝飯をみつけると、必ず注文し、胡先生のおもてなしを思い出すのです。

論文の個人指導は、蒲団がロールケーキのように巻かれ、整えられて長椅子と化した胡先生のベッド⁴に座って行われました。私がベッドに座ると、胡先生はまず、龍井茶(LongJing Green Tea)を蓋

付きの中国式マグカップ⁵にひとつまみ入れて、魔法瓶からお湯をいれ、お茶⁶を淹れてくださいました。そして、結婚式の引き出物のような、赤いキャンディーボックス⁷の蓋をとって、「キャンディーをどうぞ」と優しく微笑みながらすすめてくださったのでした。

とても質素な時代⁸でしたが、胡先生ご一家のおもてなしは、いまでも宝物のような思い出⁹として、胸に刻まれています。

[B] 中国語母語話者(上海外国語大学・國立台灣師範大學)への翻訳課題→日本語・英語

Original Chinese Text (Translated by 申 亜敏 Shen YaMing)

在我二三十岁的时候也曾经到北京、上海、伦敦以及台湾留学过。如今每当我回想起当时的留学生活时，总是会想起每回到老师家里做客时的情景。首先，就让我谈谈在上海留学时的一段回忆¹。

从1986年到1988年，在修完东京外国语大学的硕士课程之后，我以中国政府公费留学生的身份到上海复旦大学留学了两年，我的指导教授是著名的汉语语言学家胡裕树教授。当时复旦大学的老师们并没有个人的研究室，每次的论文指导课都是在紧邻大学的老师宿舍里的书房兼寝室里进行的。也由于当时老师宿舍里还没有安装电话，所以常常都是无事先告知的突然造访，但是尽管如此，老师及其家人每次都一定欣然开门迎客，我也从未尝过闭门之羹。那是一个如此纯朴的时代²！

有一天，又是一个突然的造访³。胡老师一家人对突然出现的我说道：“正好有蒸好的八宝饭，吃了再走吧！”，一边拿出八宝饭招待我这个不速之客。刚蒸好的八宝饭所带有的那种“软软、热热、甜甜”的幸福滋味，到现在仍然记忆犹新。从那以后，每当在中国餐馆里看到八宝饭，我一定会点来品尝，不为别的，就只为想再回味一次胡老师和他家人的待客之道。

每次上课时，老师都会将棉被卷成像西式卷心蛋糕似的长条状，然后将床铺整理得如同一条长凳子⁴，要我坐在上面上课。我一坐定后，老师会先在一个传统中国式的、带盖子的茶杯⁵里放入一小撮的龙井茶叶，然后从热水瓶里倒出热开水，为我沏上一杯热茶⁶。之后，再拿出一个好象装喜糖用的大红色的糖果盒⁷，打开盒子，亲切地微笑着要我吃糖。

虽然是一个物资不是很丰裕的时代⁸，但是胡老师以及他家人对我的热情款待的回忆，始终就像一个宝藏⁹一样，永远地深深地埋藏在我的心中。

[C] 翻訳例としての英語母語話者による翻訳

English Text (Translated by Caroline Kano)

①When I was in my twenties and early thirties, I myself had the opportunity of studying in Beijing, Shanghai, London and Taiwan. ②Of all my memories of studying abroad, what I still now remember most fondly, are the occasions when I was invited to the homes of my professors, and the warm hospitality I received. ③In this connection, I would first like to talk about my memories of studying in Shanghai.

④ After receiving my M.A. in Chinese from Tokyo University of Foreign Studies, I went as a Chinese government-sponsored exchange student to Fudan University, where I studied from 1986 to 1988. ⑤ My academic supervisor was the eminent Sinologist, Professor Hu Yushu. ⑥ In those days, professors at Fudan University did not have their own room, and supervision of students' theses would be conducted in their private bedroom-cum-study in the university lodgings adjoining the university building, where they lived. ⑦ As the professors' lodgings were not equipped with a telephone, students would often call on them unexpectedly. ⑧ But however sudden a student's visit might be, in those idyllic times, their professor would always invite them in.

⑨ One day, when I arrived at Professor Hu's home without an appointment, he and his family welcomed me with a "We've just steamed a *babaofan* (a cake made with glutinous rice, decorated with eight kinds of dried fruit), so do have some!" ⑩ I will never forget the 'gentle, delicate, blissful sweetness' of that freshly steamed *babaofan*. ⑪ Thereafter, whenever I go to a Chinese restaurant and find *babaofan* on the menu, I always make a point of ordering it, and recall the kind hospitality which Professor Hu extended to me.

⑫ An individual guidance session on a student's thesis would be conducted seated on Professor Hu's bed, which, with the bed cover rolled up like a Swiss roll, was turned into a sofa. ⑬ As soon as I had sat down on Professor Hu's bed, Professor Hu would place a few leaves of Longjing green tea in a Chinese-style mug with a lid, add some hot water from a thermos, and serve it to me. ⑭ He would then take the lid off a red sweet box which looked as though it might have been a gift he had received as a guest at a wedding, and, smiling kindly, and with a "Do have a sweet!", offer me one. ⑮ They were very modest times, but the warm hospitality which I received from Professor Hu and his family still remains like a treasure engraved in my memory.